

東京大学ものづくりインストラクター[®] 養成スクール

1. ご挨拶

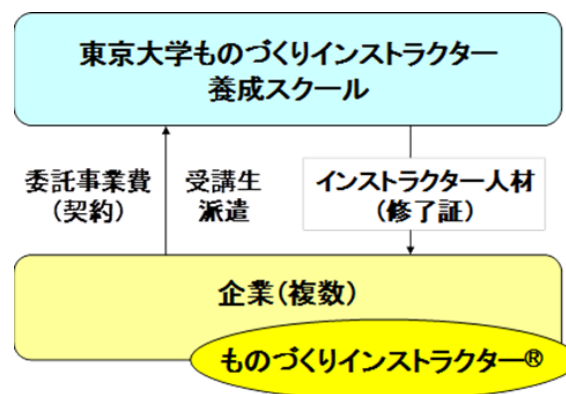
東京大学大学院経済学研究科教授
ものづくり経営研究センター長 藤本隆宏



平成 17 年度より経済産業省の産学連携製造中核人材育成事業として始まった「東京大学ものづくりインストラクター養成スクール」は、ものづくり経営研究コンソーシアムにご参加の企業各位を中心に受講生を選抜・派遣していただき、過去 9 期（9 年）にわたり 100 名の修了生を輩出いたしました。修了生は「ものづくりインストラクター[®]」として、自社のものづくり革新や後進の指導育成に、あるいは地域でインストラクター養成スクールを開校し、地域の中小・零細企業のものづくり能力向上に尽力されておられます。

「ものづくりインストラクター[®]」とは、固有技術に加え現場で培った「ものづくり技術」を有し、他産業でも改善指導ができる人材です。最大の供給源は現場の 50 歳代ベテランであり、日本全体の生産性向上のためには、その人材市場は産業間でオープン化すべきと考えております。

当スクールは、産学連携製造中核人材育成事業が平成 18 年度で終了した後、平成 19 年度以降は、東京大学経営教育研究センターのプロジェクトとして継続しております。

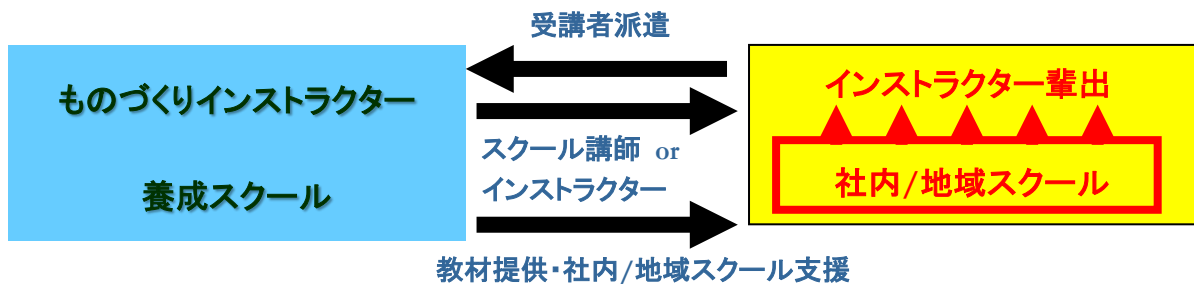


2. ベテラン人材をシニアものづくりインストラクターに

2007年以降の、いわゆる団塊の世代の大量退職は私たちにとってチャンスとなります。ものづくり優良企業から、百戦錬磨のベテラン人材が大量に出てくるからです。この千載一遇のチャンスを生かすために、私たちはそれ以前より準備を進めてきました。

しかし、いかに百戦錬磨のベテラン人材とはいえ、そのまま放り出されてしまったのでは、ご自分の経験も能力も発揮することはできません。プラスアルファの何かが必要なのです。そこで、往々にして「自分の工場のことしかわからない」と言っているベテランをシニアものづくりインストラクターとして短期間の集中的な講義と実習により再生し、社内あるいは地域のものづくり人材育成を推進する師範役になっていただくために、私たちは東京大学にしかできないお手伝いをさせていただくことにしました。

私たちにできること。それは東京大学がこれまでに蓄積してきた豊富な研究成果を十分に利活用して、私たちが本業としている教育の場で生かすことだと考えました。しかし、いかに東京大学とはいえ、日本全国すみずみまで目配りしながらお手伝いできるほどのマンパワーがありません。そこで、私たちは、師範クラス養成のための少数精鋭の研鑽の場として、東京大学ものづくりインストラクター養成スクールを開講いたしました。



3. 東京大学ならではの高度かつ実践的なカリキュラム

その密度の濃さと面白さでは定評のある藤本隆宏教授の東京大学講義が、経験豊かなシニア人材向けに、さらに高度にかつ実践的にパワーアップして展開されます。藤本隆宏教授の『生産マネジメント入門（Ⅰ）（Ⅱ）』をご覧になった方は、その質と量に驚かれたでしょう。当スクールの講義では、さらにそれを超える圧倒的な質・量の独自教材と迫力が、埋もれるベテランを短期間の集中的な講義と実習でシニア「ものづくりインストラクター」へと覚醒させます。

「基礎編」

自分の工場では“方言”や「〇〇語」で済んでいたコミュニケーション、しかし他の工場や他社工場、異業種、そして若い人には通用しません。まずは徹底的なトレーニングで「ものづくりの標準語」、主要な概念定義を身につけましょう。きちんとした用語・概念の理解こそが、管理・改善方策の学問的な体系化の基礎であり、みなさんの豊富な経験を利用可能な知的資産へと体系化する基礎ともなるのです。

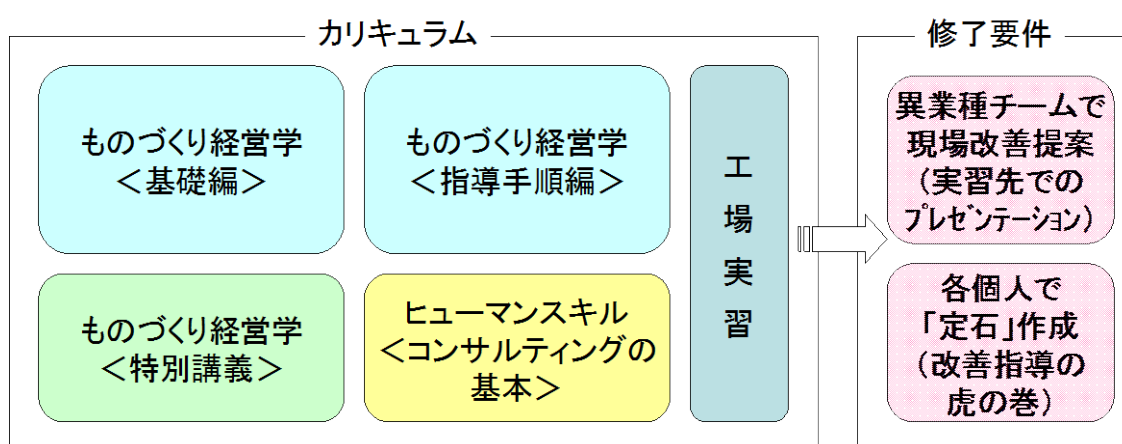
「指導手順編」

単なる物知りだけでは指導はできません。それらの概念や方策を、現場における具体的な診断・立案・指導に結びつけるための基本動作を身につける必要があります。そんな秘密を「定石」（後述）にして、工場実習などのトレーニング中はもちろん、養成スクール終了後もフォローアップに活用していただけます。

「異業種チームによる工場実習」

「ものづくり技術」とは、固有技術をつなぎ「設計情報の良い流れ」を作ること。それは固有技術の違いを超え、業種横断的に適用可能なものです。自動車、電機、化学等の異業種でチームを組み、今までに経験のない現場に入りましょう。観察とディスカッションを通じて現場改善提案をまとめ、実習先でプレゼンテーションを行います。養成スクールで学んだことの手ごたえを感じてください。

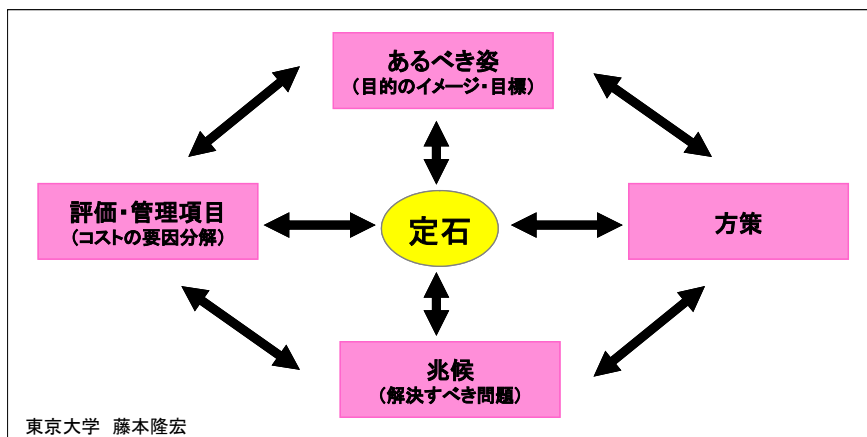
カリキュラム構成



4. 修了後のフォローアップ：定石システムによる知のメンテナンス

現場改善の事例・手法を“東大流ものづくり”で整理し、共通テンプレート化したものを私たちは「定石」と呼んでいます。個人が実際に現場の指導に入る場面を想定して、できるだけインストラクターとしての実践に役立つものを揃えることを目指しています。

各定石は、PDCA サイクルに沿って、(1) 問題とされる現場の兆候、(2) それに対する「あるべき姿」、(3) 追跡すべき管理項目・測定指標・目標値の目安、(4) 真の原因、(5) 方策、(6) 実地指導の展開手順、(7) 進捗度・到達度管理、(8) 是正措置とフォローアップ措置、といった内容で構成されます。



私たちが開発した「定石登録・検索システム」を使うことで、定石の共通テンプレート化、蓄積が可能になります。修了生には常時アクセス・活用可能なシステムです。

また、定期的に「定石研究会」を開催し、修了生相互の情報交換、懇親の場を設定しております。

【定石登録・検索システム】

このサイトはWINDOWS XP のInternetExplorer6.0以上/MAC OSX safari1.3にて動作確認を行っております。

5. 修了者実績

9年間で100名のものづくりインストラクターを送り出しました。修了生は企業に戻り、現場で、海外生産基地で、あるいは企業内スクールで活躍されています。また、自治体から派遣された修了生は、地域インストラクタースクールを開校し、地域のものづくり能力向上に尽力されています。

	修了生数	派遣元企業数		修了生数	派遣元企業数
平成17年度	12名	7社	平成22年度	9名	8社
平成18年度	18名	16社	平成23年度	7名	6社**
平成19年度	12名	9社	平成24年度	11名	8社*
平成20年度	7名	7社	平成25年度	12名	9社
平成21年度	12名	11社*			

* 自治体派遣を含む。 ** 海外からの派遣を含む。

6. 地域インストラクター養成スクール

現場の改善力、地域のものづくり能力向上をめざして、各自治体でインストラクタースクールを開講する動きが高まり、当センターでも、核となる校長格の方の養成、スクール開講へのアドバイス、講師のご紹介など、お手伝いさせていただいております。

既に、2010年度より群馬県、滋賀県野洲市、2013年度は新潟県長岡市などで開講、修了生を輩出し、一部は派遣元企業の現場改善、一部は自治体派遣のコンサルタントとして各地域の中小、零細企業の現場改善を指導し、成果を上げつつあります。

最終的には、地域のものづくり能力向上、現場の生産性の向上、ものづくり能力の高い自治体として全国から生産現場立地の有力候補として認めてもらうことを目指しています。

<お問い合わせ先>

東京大学ものづくり経営研究センター ものづくりインストラクター養成スクール事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院経済学研究科
学術交流棟(小島ホール)5階
経営教育研究センター内
TEL 03-5841-0687 FAX 03-5841-0690
Email info@mmrc.e.u-tokyo.ac.jp

